

派遣先所属 浪江町役場 市街地整備課 F-REI 立地室

氏 名 岩佐 航 (いわさ わたる)

派遣期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

福島県双葉郡浪江町は東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を受けた町です。平成29年3月31日まで町全体が避難指示区域に指定されていたため、町民が帰還することができなかった影響で、現在も居住人口は2,089人と震災前の10分の1ほどの規模となっております。町内には今も震災当時のままの住宅が所々に残っており、原発事故がもたらした被害の大きさを今更ながら実感することがあります。

私の派遣先である浪江町役場市街地整備課のF-REI立地室では、福島国際研究教育機構（以下：F-REI）の立地推進に関する業務を中心に行っています。F-REIは令和4年9月に浪江町に立地することが決定した国の研究機関で、令和5年4月1日にふれあいセンター浪江内に仮事務所を置き設立されました。これを受け、町としてはF-REI周辺をいかに活用すれば再び町を活性化させることができるかといった観点から、様々な事業を実施・検討しています。当室には8名の職員が配属されておりますが、うち5名が応援職員という体制で互いに協力し合いながら業務を遂行している状況です。

福島国際研究教育機構（F-REI）（令和5年4月設立予定）の概要

福島国際研究教育機構（以下「機構」）は、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるものとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指す。



F-REIの概要（福島国際研究教育機構の在り方に関するアドバイザー会議[第1回令和5年3月29日]より）

こうした中、F-REI立地室ではF-REIの立地に伴い町の施策等でF-REIの位置づけを図るための構想（基本ビジョン）策定を図っている状況です。私の業務としては、この基本ビジョン

の策定に当たり必要な情報収集等を行っております。

担当業務として主要なものを3つ上げますと、構想策定に向けた①F-REI 周辺環境調査等の業務委託、②復興庁をはじめとした関係機関にF-REI 周辺をどのように活用するか検討してもらう「F-REI 門前町の勉強会」開催、③先進地視察の対応等を行っています。

具体的には1つ目の周辺環境調査等の業務委託では、関連する上位計画の整理や先進地の事例調査、また周辺のインフラ図の整理等について実施しています。これらを通してF-REI 周辺のまちづくりを進めるに当たり、その計画の実現可能性等を検討するための材料を集める業務となります。

2つ目の「F-REI 門前町の価値向上・魅力向上勉強会」は、復興庁やF-REI、福島県等関連する9団体の職員を対象に、専門家による講演を通してF-REI に関する理解促進を図るとともに、ワークショップでは構想の策定に当たっての意見を集めることを目的としています。本勉強会は講義とワークショップの2部構成で、今年度4回の実施を予定しています。

3つ目の「先進地視察」ですが、類似の施設が整備されている地を訪問し、現在生じている課題や参考にすべき点等を聴取することを目的としたものです。今年度は山形県鶴岡市にある「鶴岡サイエンスパーク」と、千葉県柏市にある「柏の葉」の視察を実施しました。いずれも大学などの学術機関が立地している周囲にベンチャー企業等の集積が図られている形で、浪江町の将来像が臆気ながら感じられる視察となりました。

以上に述べたような業務を進めていく状況ですが、中々成果が目に見える形で現れないという点もあり、どこまで業務に関与出来ているのかという葛藤はありますが、長期的事業により町がまさに変わっていくその時に関与できるという大変貴重な経験をしています。

2 被災地の復旧・復興の状況

浪江町の状況ですが、インフラ関係の復興は着実に進んでいる一方、在住人口が震災前の10分の1である約2,000人となっています。帰還困難区域の指定がある地域では2011年3月11日のまま時間が止まっていると思わせる光景を目にします。そうした光景を見る度にかつてはそこで普通の生活が営まれていたと思うと、改めて原発事故が引き起こす被害の深刻さを実感せずにはいられません。震災関連の視察としては請戸小学校、福島第一原子力発電所に行きましたが、いかに今回の震災を後世に向けた教訓として活かすことができるかが重要だと感じました。

このような状況下、浪江町では浪江駅周辺整備事業でまちの中心市街地の再生を図ることを計画しています。これに合わせてF-REIの誘致が決まったことでそれぞれの事業が町の起爆剤として復興を加速させることが期待されています。これらの事業が完了した際に新たな浪江町の姿が見られることが今から非常に楽しみです。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

福島県の中通り・会津地方には何度も訪れたことがありましたが、浜通り地域は長じてから初めて訪れる地となりました。気候も中通りと比較して晴れが多い上に暖かく、大変過ごしやすい

まちです。そして、食べ物とお酒がまた美味しい。元々浜通りの海産物は常磐物と呼ばれ、全国的にも非常に評価の高い水産物であったようですが、こちらに来て福島産の海産物を食べる度にその美味しさを実感します。お酒に関しても福島県は全国的に非常に評価が高い地で、浪江町でも蔵元が震災により山形県に移転して営業していましたが、令和3年浪江町に事業所を立て営業再開しています。道の駅なみえにその蔵元の有料試飲スペースがあり、場合によっては仕事帰りにふらっと立ち寄りお酒を楽しむといったこともしております。

このようにプライベート面は非常に充実しており、埼玉にいる頃から毎年東北旅行に来ていたのですが、今までよりはるかに早い時間で各地に遊びに行けることから頻りに旅行へ行っています。趣味が源泉かけ流しの温泉めぐりということもあり、週末になると福島県内はもちろん東北各地の温泉を訪ねこちらでの生活を満喫しています。せっかくこちらにいる利便性を生かし、心行くまで福島での生活を満喫したいと思います。

浪江町をはじめとした東北地方には魅力的な観光地がたくさんあります。皆様が実際に足を運んでくれることが復興にもつながりますので、このレポートをご覧になった多くの方が実際に足を運んでくれることを願って筆を擱かせていただきます。



相馬野馬追 (南相馬市)



裏磐梯の五色沼 (北塩原村)



能登谷旅館 (山形県銀山温泉)



鶴の湯温泉 (秋田県乳頭温泉郷)